

實相寺 花園會報

「無事是貴人」
ぶじ これきにん

妙心寺派管長

布鼓庵 ふこあん

倉内松堂老大師 くらうちしょうどう

(明治三十八年〜平成三年)

臨濟禪師の言葉。正しい

ものの見方を手に入れて、

自分の外に安心を求めたり

せず、あたり前の日常を

あたり前に行じていくのが

貴人であると説いている。

造作、すなわち特別な計らい

があつてはいけない、と戒め

られている。



「台湾旅行偶感」

先日、二泊三日で台湾を訪れました。住職夫婦は平成七年一月、震災の二日前に結婚しましたが、寺庭さんは新婚旅行以来、海外に行ったことがありませんでしたので、子供達の卒業祝いも兼ね、親子四人で出かけてきました。

台湾には妙心寺派のお寺もあります。今回はプライベートに一般観光地を回りました。ただ夜市を訪れた際、ひとときわ明るい建物があったので何かと思つて近づいてみると、「松山慈祐宮」というお寺でした。

二百五十年程前に建てられた道教の

お寺なのですが、興味深かったのは、六階建てのお堂には観音様やお釈迦様も祀られていて、神仏融合しているのは日本だけではなかったという発見と、おみくじの引き方でした。

まず左側の赤い三ヶ月形の物を二個取つて、占いたい願いを念じて投げます。表と裏が出れば右側のおみくじを引けますが、表や裏裏だとおみくじは引けません。失敗しても三回まで挑戦出来るそうです。



令和二年 二月一日発行
発行所 臨濟宗妙心寺派 陽明山 實相寺 實相寺花園会
〒761-0450 高松市三谷町 1811番地1
TEL.087-889-3838
編集発行人 山本文匡
<http://www.jissouji.net>

第130号

「無事」

たまたま『花園』一月号のコラムで、元徳元年（一一三二九）に畿内でインフルエンザの大流行があったことに触れましたが、あの原稿を書いたのは昨年十月でしたので、その時点では「新型コロナウイルス」の流行を予測する筈もありません。ただ歴史を俯瞰して見ると、残念ながら天災と疫病と戦争は割と同時期に発生しています。ここ数年、毎年のように各地で大規模な自然災害が続いていましたので、私としては「油断してはならない。豚コレラや鳥インフルエンザの流行もあったし、戦争が起これなければ良いな」という思いで書いた原稿でした。

あの原稿を書く際に、資料として買

い求めた『日本災変通志』(池田正一郎、新人物往来社、二〇〇四)という本があります。結局この本からの引用はしなかったのですが、この本は古代（一九三）から明治十年（一八七七）までの天災地変、飢饉や戦争、疫病などの記録を、様々な資料から抜粋して網羅的に記録しています。

例えば『花園』に書いた元徳二年の翌年は元弘元年（一一三三二）で、南北朝時代が始まった年ですが、この前後は各地で合戦が起こっているのに加え、七月には「富士山の山頂が大地震で数千丈崩壊した」と『太平記』には記されている他、紀伊半島でも大規模な地震があった様です。

また明治元年（一八六七）五月には

近畿地方で大雨による大規模な土砂災害が起こっている他、東北、関東と全国的に風水害が起こっていますが、翌明治二年の近畿は日照りによる干ばつの上、京都周辺は天然痘が流行したようです。幕末から明治初期は、各地で打ち壊しが行われたのに加え、戊辰戦争中の出来事でした。最近では第一次世界大戦中のヨーロッパではスペイン風邪が大流行しましたし、第二次世界大戦中には南海地震がありました。

この様に、不思議と人間社会と自然界（病原菌も自然由来です）の動向は何となく関係性があるように思えます。すなわち社会の安定期には天災も少ないようですが、社会が不安定な時期は天災も頻発するのではないかと…。

勿論、人間も自然の一部ですし、心が自然環境の影響を受けるのは当然のことかも知れませんが、私はその逆もあるのではないかとと思うのです。

さて令和二年度の花園会推進テーマは「ありのままこそ仏さまー無事は無事是貴人」です。詳しくは、又の機会にお話ししますが、「無事」なのは周囲の状況では無くて、自分自身の心持ちです。どんな時でも、ありのままを受け入れて、無事に過ごせる人こそが貴人なのですが、逆説的には、私達が心を落ち着けて調えることが出来れば、戦争などの人災は勿論のこと、疫病などの天災被害も減らしていくことにも繋がるのでは無いかと思う今日この頃です。お互いに心の無事を心掛けましょう。